

石に刻む思い共々に

浅賀正治¹⁾

1. はじめに

「人類の歴史は石に刻まれ遺った」そして「あらゆる文化の起源をたどる時、やがて道は石造文化の中に起点を見る」

石文化は人類の根源的な文化の一つです。冒頭の指針は、石彫刻の道を志した当時の私への激励として、私の彫刻の師である小金丸幾久先生が語ってくれたものです。以来何十年、この言葉を大切に感じ、年々重く身読しています。

2. 石彫を素材とした社会貢献

これらの教えを広く市民の方々にも伝えたいと決意して、これまで奉仕としての市民石彫講座を何回も自主開催してきました。主宰する岩瀬石彫展覧館で1994年から始めた無料石彫講座の回数は、今では36回になっています。学校の総合学習での石彫体験や石材業の方々へのセミナーも、回を重ねつつ、挑戦してきました(写真1, 2, 3)。石を刻む思いは国境を越

えて世界に広がることを実感することができるように、アーティストインレジデンス(石彫刻の国際交流)を、1994年から隔年で6回開催し、市民石彫家を育てる事業も行っています。

これらの事業は、当館を共に支援くださる市民ボランティアの皆さん、地元の石材会社の社長さんたち、住民の方々、各団体からの応援をいただいて、継続



写真2 2006まなびピア茨城での石片を使った石彫体験教室。



写真1 市民石彫講座の風景。



写真3 岩瀬東中学校での立志記念石彫制作。

1) 岩瀬石彫展覧館

キーワード：SPP, 花崗岩, 石彫, 社会貢献, 手代木中学校, 石の学校



写真4 手代木中学校SPPでの初めての石彫講座。

発展させることができました。このような中で、1997年の茨城県国際交流奨励賞、2004年のブルガリア共和国名誉賞（同国の石彫家の招待と文化交流に）、2005年の日本国際交流基金地球市民賞を受賞することができました。

石彫を通してのコミュニケーションや学習効果、石を素材とした社会貢献は、私の目標であり、「石の学校」と呼ぶ挑戦を続けています。

3. 手代木中学校SPPでの四つの挑戦

今回のつくば市立手代木中学校でのSPP（サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト）では、これまでの経験の中で積み重ねた学習効果としての石彫を、生徒と先生方にさらに理解していただけるように全力を尽くしました。今回は四つの目標を掲げて挑戦しました。

一、受講する手代木中学校の科学部と美術部の両部員には、スポーツ系の部活動と同じように、勝利、



写真5 手代木中学校SPPでの石彫共同制作。

向上、共同、お互いの絆を深めるチームプレーでの達成感を知ってほしい。

休日練習や早朝練習のような自主的な発意を呼び起こしたい。顧問の両先生を応援し、生徒とコーチのような関係を築くようにする。

二、受講する両部員には、学校中の生徒からの注目を浴びるように、スポットライトが当たるようにしたい。スポーツ選手がグラウンドで喝采を浴びるように、みんなの前で照れくさいほどの沢山の言葉をかけてもらえるようにしたい。

文科系には、元々白黒も勝負もありません。互いの違いこそが大切な価値です。では、いかにすれば、スポーツと同じ勝利感のような目標と強い方向性を一人一人に感じてもらえるか。人間の歴史と石文化の誇りを重大なメッセージとして話しています。そして、千年も遺る手代木中学校の財をみんなの手で造る事業であることを伝えていきます（写真4、5）。

強い目標は遠大な使命感の体得です。こうした使命感は、勝利を目指すスポーツ選手と同じです。これを制作中に尋ねられた両部員が他の生徒に説明したりすること、千年遺る夢を思い描く姿は、全校生の羨望とともに、人生のチャンスと考えています。

三、私の志の石彫刻と同じ素材をテーマに研究する研究者の講座を、両部員と共に一生徒と同じ気持ちで受講する。

うれしい期待がありました。どんな方々がどのような授業をするのか、またどんな成果がでるのか、石は共通の素材です。同じ山頂を目指して別のルートで登る挑戦者を知ることは、私の励みになります。それと共に、人々の平和な世界を作る基礎をなす研究分野を知る時間にもしたい。

四. 石彫刻を志し、今日まで継続して発展することができました。沢山の注文に応え制作できたことに、日々深い感謝を実感しています。自身の仕事に自信と誇りと感謝の思いがあれば、次の時代への後継を育てる責任が生まれます。若い人々に伝える責任が生じます。他の分野の人々に、女性の方々に、人生の楽しみとしての石彫を教えることの責任が生まれます。こうした指針も、私の師より教えていただきました。

手代木中学校SPPでの石彫体験は、立志の大切さを石に刻みこみながら知ってもらうことでもあります。

4. 心の中に建つモニュメント

石を打ち彫る行為は、人類の歴史と共に始まり、続いています。四千年以上も前から人々の声として、そして現在より未来千年への新しいメッセージを載せてゆきます。両部員の石彫は、目に見える触れる歴史のカプセルとして、学校の財たからになります。

世界遺産のピラミッドやパルテノン、奈良の石舞台の遺跡建築は、いずれも偉大な事業です。広く世界中の人々に知られている立派なモニュメントです。それは、人々の心の中に建っているからです。もっとも難しいものは人々の心の中に建つモニュメントです。大きい、高価、めずらしい、美しいだけでは、人々の心の中に建つとはかぎりません。SPPでの石彫を、一

人一人の生徒の心の中に、成長と共に遺るモニュメントとして建立したいのです。後継の若人の応援碑になってほしいと願っています。

手代木中学校SPPは、生徒にとってめずらしいものです。特別な授業は、特有の一過性のおもしろさだけが目につき、永年忘れることがない出会いの工夫が少ないです。手代木中学校での石彫制作では、美術部顧問の国谷先生と科学部顧問の菱沼先生は、生徒一人一人との対話を通して、生徒との絆を深めています。両先生自らが率先して楽しく石を彫る姿が、印象的でした。両先生のこうした熱意が今回のSPPの成功成果の大因であったことを、読者の皆さまに報告します。

5. おわりに

岩瀬石彫展覧館が目指す「石の街の“石の学校”」は、立派な校舎や特別な場所を作ることはありません。学校とは、すばらしい環境と熱い一人がいて、そこに集う人々によって創られます。手代木中学校SPPの中に、正に全てが備わったと感じています。2007年6月から翌年2月まで計14回のSPP講座は、講師たちの心願である地球、環境、平和、文化を、生徒一人一人の手元で感じてもらえる“石の学校”になったと思います。

謝辞：出会いの場を提供いただいた科学技術振興機構に深く感謝を申し上げ、私自身の成長を誓って、お礼の誓いとします。今回のSPPの取りまとめを担当され、細部にわたり甚大な配慮をされた長秋雄氏に感謝します。

ASAGA Masaji (2008) : Thoughts engraved on stones.

<受付：2008年1月15日>